想像力をふくらませて、昔話の続きを考える。（室内プログラム）

22 昔話のその後は？

自由に想像をふくらませて、うまくできあがったお話は、他の人に話したくなるものです。昔話や民話に興味を持つのもよいでしょう。想像した物語を作文にすることも楽しみましょう。

ねらい

想像力をふくらませて、自分で物語を創り出すことができるようになる。昔話や民話、文章で自分の考えを人に伝えることへの関心がわくようになる。

達成目標

・物語の続きを創作する。
・想像したお話を上手に人に伝えることができる。
・想像したお話を、作文にまとめることができる。
・他の人の創作をうけとめ、コメントすることができる。

導　入

民話や昔話に関するお話をしたり、短くておもしろい内容のお話を読んだりして、子ども達の興味を引き出す。

本　体

ワークシートにある民話を黙読し、続きのストーリーについて想像し、文章に書きとめる。できた作品を紹介しあう。

ふりかえり・わかちあい

昔話(民話)－想像－作文－発表という一連の活動をとして、この四つの要素について感じたこと、気づいたことを紹介しあう。

まとめ

昔話（民話）への関心、想像することへの関心など、どこに焦点を当てるのかを考えて、日常につながるコメントをする。

実施のポイント

個人でも、グループで打ち合わせながら創作してもよい。右のワークシートのお話の続きに「アゲハの糸箱（中にアゲハチョウが入っていて、糸をどんどん紡いでいる箱）」が登場してくるので「アゲハの糸箱」（民話の題名）を登場させてお話の続きを創作するようにうながすとよい。

◆所要時間	60分
◆人　数	何人でも （大人数ではグループ分けする）
◆関連教科等	総合的な学習の時間、国語
◆焦点を当てる能力	想像する、創作する、 文章をつくる、発表する、 他の人の意見を聞く、 自分の意見を発表する
◆準備するもの	ワークシート、筆記用具
◆安全のポイント	特になし

評価の視点

想像する、表現する、という力が個々に発揮されているかどうか。

発展・応用

ここに掲載した民話以外でも、本プログラムに使えるおもしろい話はあるので、探して使ってみよう。特にお話の終わりが未消化状態?（尻切れトンボ）のようになっているものが題材になりやすい。

引用文献

「平成11年度環境教育活動報告書」
山のふるさと村ビジターセンター
オリジナル／自然教育研究センター

昔話のその後は？ 22

アゲハの糸箱（いとばこ）

いまから八百年ぐらいまえのこと。

屋島の合戦にやぶれた平家の大将、門脇越後守国盛は、妻のくずのはをつれて四国の山に身をかくしたそうな。

都にいるときは、たかい位にのぼり、なん十人というめしつかいにとりかこまれて暮らしていたのに、猪ノ鼻の峠を越えて吉野川の岸にたどり着いたときには、おとものものもちりぢりになって、国盛とくずのはの、たった二人だけになっておった。

それから十日あまり、道もない山をさまようたすえ、土佐の国、佐賀山の里にたどりついたそうな。「ここまでくれば、敵も追っかけてくまい。この村で百姓になって、住みつくことにしようではないか」

こういうて、ふたりは、村人の助けで、小さな家をつくり、わずかばかりの畑をたがやしたり、村の子どもたちに文字を教えたりして、ほそぼそと暮らすことになった。

都からきた身分の高い人だというので、村の人々は国盛をうやもうた。ことに、妻のくずのは御前は、このときまだ十八さいの若さで、かがやくばかりの美しさだったそうな。「気のどくなことよのう。箸より重い物を持ったこともなかったお姫様が、今日も、たきぎをせおうてござる」

生きていくために、ひっしで働く、くずのはを見ていると、みんなはかわいそうになって、涙をこぼした。

佐賀山の里におちついたとき、くずのはは赤んぼうを身ごもっておった。夏がすぎ、秋がくると、おなかは大きくふくらんできた。

それを見て、国盛は、ためいきをついた。

「このびんぼうのなかで、子どもが生まれるのは、こまったことだ。それに、いつなんどき源氏の役人に見つかって、ころされるかもしれない身の上なのに」

しかし、生まれてくるものは、どうしようもなかった。

山々が、すっぽり雪をかぶって、もうすぐお正月だという日に、くずのはは、まるまるとふとった女の子を生みおとしたそうな。

村の人たちは、よろこんでかけつけると、赤んぼうにうぶ湯をつかわせたり、くずのはをかいほうしてくれた。

「このふかい雪の日に生まれた子じゃ。名は、みゆきとつけよう」

そういうて、父親の国盛が、赤んぼうの顔をのぞきこんだとき、しんじられないような、ふしぎなことがおこった。生まれたばかりの赤んぼうが、すっと立ちあがったと。

そして、ねている母親のほうに手をあわせると、入り口の戸の上に、ゆらりととびあがった。

まったく、あっというまのできごとだった。

そして、赤んぼうは、そのまま、ふぶきの中へ、とけこむようにきえてしもうたそうな・・・。（つづく）

出典「高知県の民話　偕成社」

●お話の続きを考えて書いてみましょう。

年　　月　　日　名前